

第11回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会

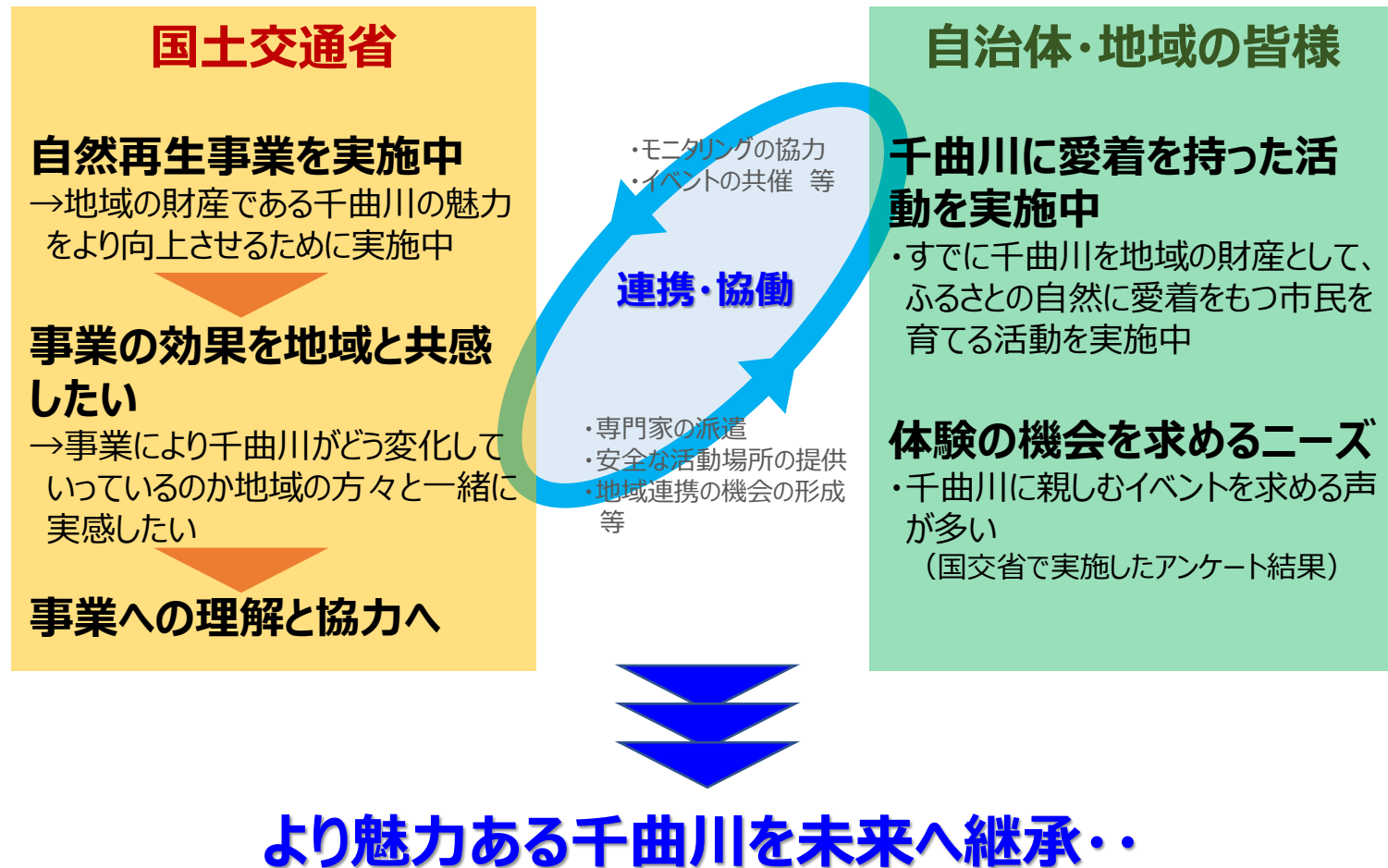
地域連携の取組について (地域自治体との意見交換結果の報告)

令和4年3月18日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

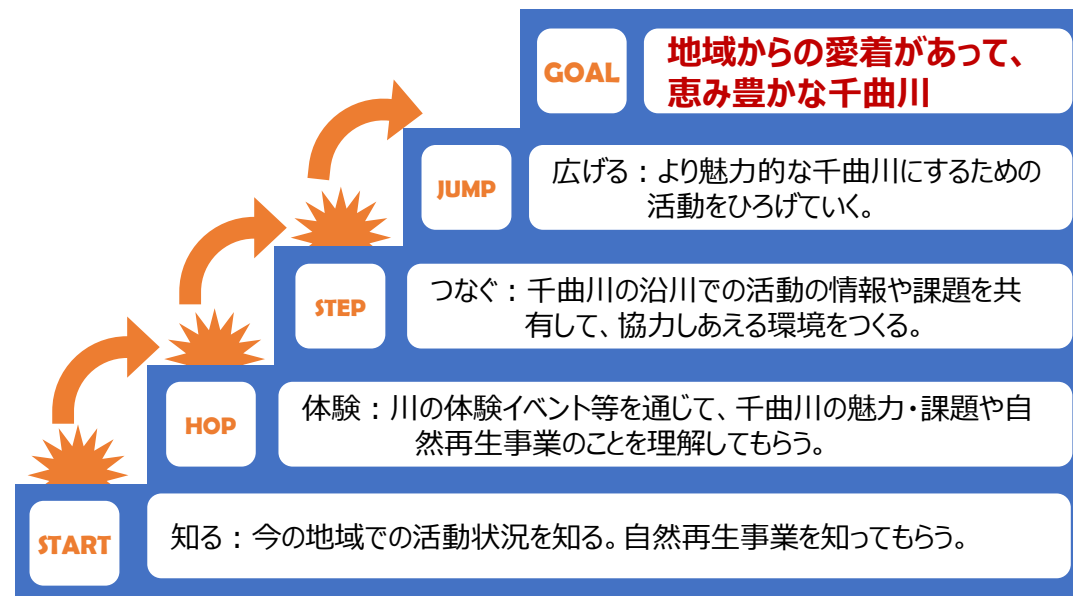
1.地域協働の目指すもの

- 千曲川の沿川地域では、すでに千曲川へ愛着を持った活動が実施されている。また、アンケートによれば、地域からもっと千曲川に親しむイベントの機会を求めるニーズもある。一方、砂礫河原の再生工事等の自然再生事業を実施している国土交通省は、事業の効果を地域と共感したい。
- そうした両者が連携・協働することで、互いの活動が発展し、結果として、より魅力ある千曲川を未来の子どもたちに継承していくことができる。これを目指し地域協働を実施する。

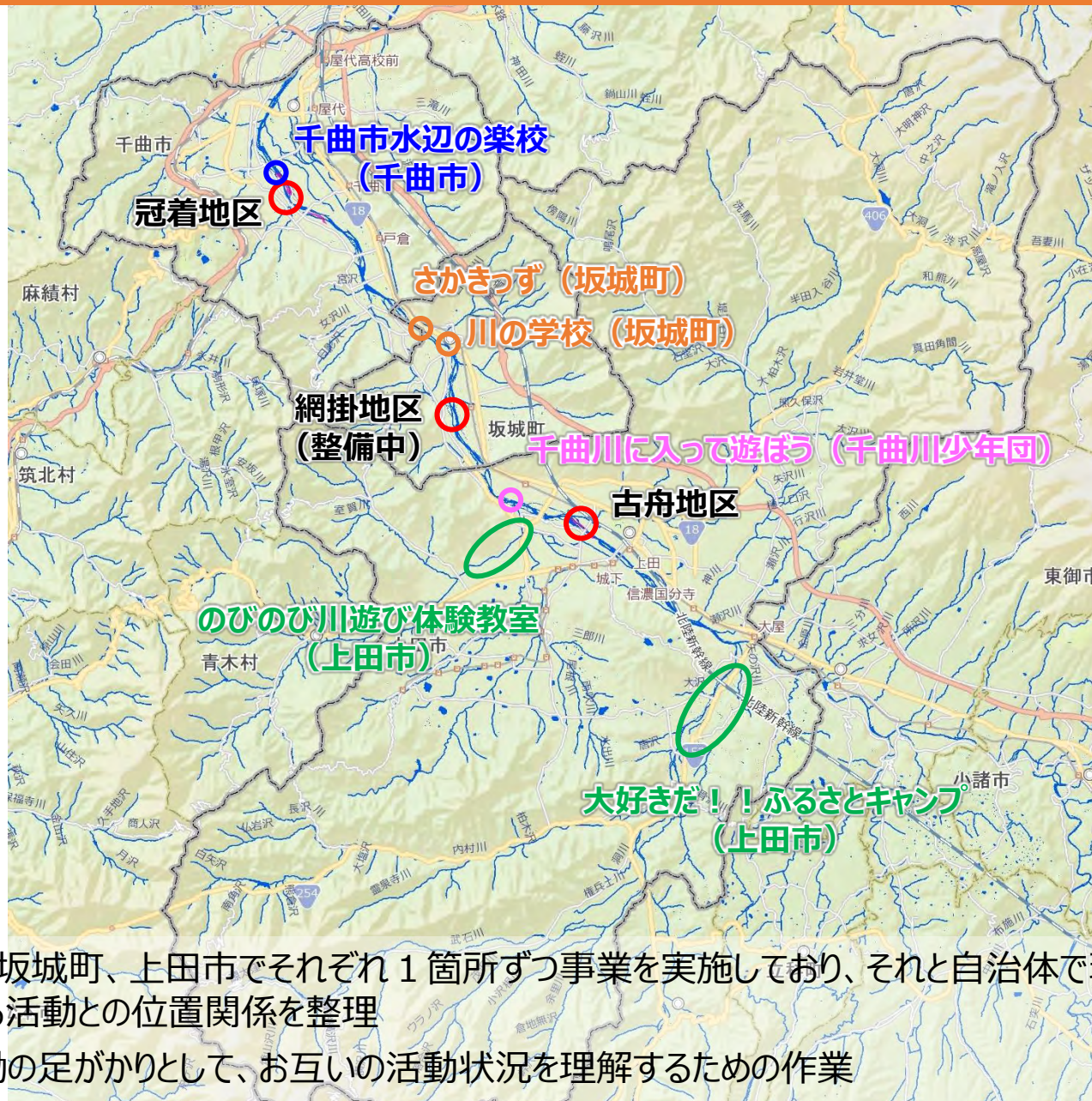


2. 地域協働の進め方

- 地域協働は一足飛びに進めることはできない。地域協働のゴールである、千曲川が地域みなさんに活用され、千曲川が地域に愛される河川になるためのステップアップしていく考え方を整理した。
- まず、地域の人たちに千曲川を知ってもらうことからスタートし、千曲川を体験してもらうイベント実施して千曲川の魅力や課題を自然再生事業について理解してもらう。それを通じて、地域がつながり、魅力あふれる千曲川に育てていく・・・そのようなステップアップで、**活動されているみなさんと一緒になって進めていきたい。**
- 地域協働は、地域の方々と一緒に考え、より恵み豊かな千曲川としていくための活動。



地域協働の進め方概念図（ホップ・ステップ・ジャンプ）



- 千曲市、坂城町、上田市でそれぞれ 1 箇所ずつ事業を実施しており、それと自治体で現在実施されている活動との位置関係を整理
- 地域協働の足がかりとして、お互いの活動状況を理解するための作業

4.地域自治体との意見交換の実施

- 地域協働を進めるため、地域自治体等へヒアリングを行った。
- 地域協働の目指すものを共有し、そのはじめステップである「知る」「体験」の段階で協働できる取組について意見交換を実施した。

■ 実施方法

- 日時：2022年1月22日
- 方法：オンライン

■ 目的

- 地域協働の目的、目指すものの共有
- 地域協働を実施していくための課題等の把握

■ 内容

- 地域協働で目指すものについて説明
- 自然再生事業の目的・実施状況を説明
- 具体的に協働できる取組案を提示
- それらを踏まえて、協働するうえでの意見交換を実施

■ ヒアリング先

- 自然再生事業を実施している、上田市・千曲市・坂城町

自治体	参加課
上田市	生涯学習文化財課、土木課 信州上田千曲川少年団
千曲市	生涯学習課、環境課、都市建設課
坂城町	教育文化課、建設課

5.地域と協働での取組（案）

- 具体的な取組案を各地域自治体等での活動内容に合わせて提案
（一部は過去に千曲市と協働で実施した取組）

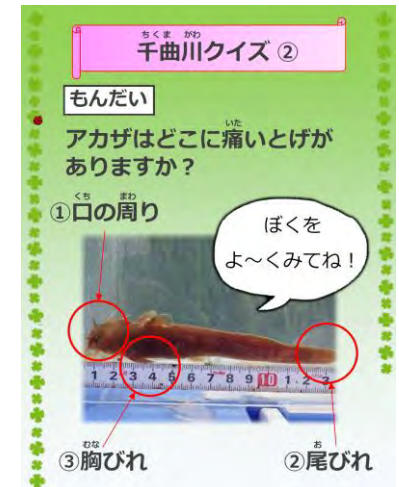
- 千曲川の自然と、それをよく知る取組み
「自然再生事業の紹介」 座学と野外講座



- 子どもたちに川の自然に親しんでもらう
礫河原でバードウォッチング



- 子どもたちに川の自然に親しんでもらう
クイズラリー



- 礫河原がつくる千曲川の清流をモニタリングする
水質調査とそこにすむ生物



- 千曲川の自然を学ぶまち歩き



掘削後12ヶ月経過（平成31年4月）
砂礫河原が維持されている



6.意見交換結果を踏まえた今後の協働の方向性（案）

- 地域自治体等の意見交換結果を示す。どの市町からも前向きな意見をいただくことができた。
- 各自治体（長野市も含めて）がイベント等を企画する段階で、国土交通省も参加（企画を提案する等）し、地域協働を進めていく

	主な意見
上田市	川の体験教室の中に組み込む形で一緒にできることがあるかもしれない。 礫河原のバードウォッチング、クイズラリーなど。
	古舟橋下の砂礫河原なら、道の駅も使え、広い場所なので、協働でできることがある。
千曲市	環境市民会議にこの提案をつなぎ、検討してもらうことはできる。
	水辺の学校でもこれまでと異なるメニューを、この提案内容から検討したい。
坂城町	お忙しい専門の先生の代わりにきてもらったり、座学と野外講座の組み合わせのイベントを一緒にできたらよい。

次年度以降、各自治体（長野市含む）が企画を検討する段階で、協働できる内容について検討していく。